

北ア最奥の山上庭園を訪ねる山旅 太郎兵衛平~雲ノ平~双六岳

- 実施日 2011年8月7日(日)~11日(木)
天候 晴れ時々曇り
リーダー CL涌井 良明
TL若村勝昭、島本陳重
SL鈴木政三、佐藤金治、鈴木
恵美子 / 会計・渉外 中村友
子、渋谷京子、鈴木恵美子
- 参加者 若村貴世子、若村勝昭、佐藤金治、
涌井良明、島本陳重、鈴木政三、山
崎富美恵、鈴木恵美子、石附智江、
渋谷賢寿、渋谷京子、中村友子、伊
藤久雄、石原勝正、宇野輝代、長
濱隆行、長濱あゆみ 計17名
- 費用 東京・池袋⇒富山(バス7,350円)前泊
+折立バス(セットチケット8,000円)山小屋
3泊(26,100円)新穂高温泉⇒松本タ
クシ(5,375円)松本⇒新宿(JR)6,200円
合計53,025円
- タイム 8/8 富山駅(5:00バス)折立(7:00~7:2
0)休1610m(8:20~8:30)三角点
(9:25~9:40)休(10:30~10:40)214
5m休(11:30~11:40)太郎兵衛
平(12:35~13:05)第一徒渉点(13
:55~14:05)第三徒渉点(15:05~1
5:15)薬師沢小屋(16:00)泊
- 8/9 薬師沢小屋(6:20)2130m休
(7:38~7:45)2360m休(8:50~9:
10)アラスカ庭園(9:35~9:50)祖母
岳(アルプス庭園)(11:00~11:10)
雲ノ平山荘(11:40)テント場水
補給・スイス庭園散策 泊
- 8/10 雲ノ平山荘(5:45)日本庭園
(祖父岳山腹)(7:20~7:25)黒部
源流徒渉点(8:30~8:50)三俣
山荘(9:35~9:52)三俣蓮華岳(1
1:15~12:00)昼食)双六岳(13:30
~14:00)双六小屋(15:00)泊
- 8/11 双六小屋(5:35)弓折乗越(6:5
5~7:06)鏡平小屋・鏡池(7:45~
8:5)シウトク原(9:02~9:35)昼食)
秩父沢(10:35~10:45)小池新
道入口(11:25~11:40)新穂高
温泉・中崎山荘奥飛驒の湯
(13:00~15:00)入浴休憩・タクシ
松本駅(17:50~18:35)軽打上)

データ 積算距離 約42km
総上昇量 2,560m
最高高度 2,861m

8/7 三列シートの快適な直行バスで富山入り、行程の無事を期して軽く前祝いをして、各自の部屋で(大河ドラマ見て?)就寝。8/8午前5時に満員の折立行のバスが動き出す。1355mの折立は街の暑さはなく快適だが、ザックと役割の重さ、更にならば歩程を考えるとスタート前はマウンテンブルーといった気分である。はたしてスタートからグッとザックがのしかかる急登が始まる、登り下り一度づつ経験した道であるが全く記憶がないのは、当時はいづれも意に介さずに嬉々として歩いていたのかも知れない。



2時間ほどかけて三角点へ。前方が開け、向かう稜線が望めるようになるが、まだまだはるか先に見えるのは、ガクッ!とするが半兵衛を気取る。



周囲の眺めを楽しみながら高度を稼ぎるところだが、今日はそんな余裕はありません。ただ、重い、つらい、とピッチも上がらずアーン情けなや、リーダーおりましたーい!皆が平気そうに歩いているのがグヤジー(><)

太郎兵衛平も近づいてきた頃から、頭上に黒い雲が広がり始め、太郎平小屋に着いた時はポツリ、ポツリときた、昼食をとり午後の部の始めの頃には水滴の在庫も少なかったのか?周囲は再び明るさを取り戻しつつあった。

黒部五郎方面に僅かで薬師沢へ分岐で左方へ、木道から斜面を下って行く。今夜の宿舎の薬師沢小屋までの長い下り道を辿る、取り戻した青空と林と谷を隔て



た薬師岳の姿に慰められて歩く、明るい第一徒渉点で顔を洗い第二、第三徒渉点でも無事に通過、広く気持ちの良いカベツケガ原の木道を過ぎて、尾根を急下降すると薬師沢小屋に着いて、今日の長い歩きが終わった。豊富な水量の黒部源流の薬師沢の流れを子守唄にオヤスミナサイ。

8/9今日は登りっぱなしの3時間の行程で主目的の雲ノ平を満喫することである。薬師沢小屋から橋を渡り、ハシゴで



河原に降りすぐ先から、大東新道と雲ノ平へとは別れる、我々は山腹の真急の道を行くことになる。濃い樹林帯の急登は

に付いた苔や濡れで足場が悪く、両手も駆使しての登行となる。それだけに一歩ごとに高度は確実に上がっていく。

ひたすら頭上を見上げての歩きも2350mで突然終わり、緩やかになると既に雲ノ平の一角に辿り着いたことになる。

木道になり明るく開けた所で周囲を眺

めてから、更に緩く木道を行くアラスカ庭園で黒部五郎岳が大きい、この辺りからは本当に気持ちの良い高原台地が広がり



雲ノ平の本領発揮というところだ、進んで奥日本庭園を過ぎると、緩く下るが右へ祖母岳(アルプス庭園)が別れる。ここは当然空身で右へ向かう、花も非常に多い



木道が山頂部へと導いてくれる、池糖も見られる楽園の祖母(バア)岳のアルプス庭園では、僅かだか槍ヶ岳や笠ヶ岳の姿も見せてくれた。ワイワイ賑やかに分岐に戻ると、もう雲ノ平山荘は間近である。

予定通り、午後は散策時間となりそうである、チェックインと昼食後水汲みを兼ねてスイス庭園へ散策に出る。祖母岳方面へ木道を行き、テント場まで20分程、水量豊富な水場でそれは旨い水を補給後、スイス庭園に向う、薬師岳の巨体、水晶岳

のアルペンの山稜が、眼下に広がる高天が原を挟んで見事に対峙する雄大な眺めは、真にスイス的な素晴らしい眺望である。来て良かったねえ！



小屋に戻って、夕食までの休憩。山腹の真急の道を行くことになる。濃い樹林帯の急登は

める見事な夕陽のデザートも付いて雲ノ平の一日は暮れていった。

8/10 今日はこの山行唯一の山頂を訪れる歩程である。昨日散策した木道をスイ

ス庭園へ向い、祖父岳(ジイダケ)の裾を回り込むルートを行く(テント場経由の道は植生回復のため通行止)谷を挟んだ水晶岳の



山腹の迫力に圧倒される。祖父岳山頂から岩苔乗越への分岐から祖父岳の西側に入り、日本庭園を抜けて行く。

前方の谷が近づくと急下降路になり、咲き乱れる花に和みつつ下り



と、黒部源流の河口で張られ、盛夏の嬉しき思いに顔を

頭を存分に冷やして休憩である。

ここから三俣蓮華岳は450m近くの登りになる、直ぐに岩苔乗越への道と分かれいくつもの小沢を渡り返しな

ながら登る、水音は心地良いが、やはり登りはきつい。明るい霧囲気と気がつけば背後で一緒に迫りあがりを見せる羽岳の勇姿に励まされ歩を進める、傾斜も緩くな



ると三俣山荘も近い。山頂への分岐から左へ僅かで三俣山荘だ、初めての裏銀座で訪れた時と同じ迫力で鷲羽岳が迫っている。懐かしいやら嬉しいやらで、感慨深いものがある。ただ、槍さんが姿を見せないのが残念と言えれば残念ではある。

夏山行動食の贅沢品、果実で舌と口を潤す、ここまで背負ってきてくれたメンバーに感謝です。

頭上に立ち上がる三俣蓮華岳に向って後半の登行にかかる、黒部五郎への道道を分け徐々に傾斜を増し、三俣峠で巻道を見送る。山頂を眺めると、山帯急登の三俣蓮華岳に着く。



りと大展望が広がる、鷲羽岳か裏銀座、水晶岳への山稜、ダイヤモンドの核心となっている黒部五郎岳のカルト、しばし周囲を山岳風景だけに囲まれた北ア最奥の頂に立つ喜びに浸る。笑顔で昼食を済ませ、写真を撮って双六岳へ向う。まずは下って登ってピーク(丸山)を越し、更に緩く下ってとゆったりとした稜線歩きを楽しみながら進む。



双六山頂を巻く小屋への中道ルートに分けて緩く登って双六岳の山頂に到着、この山行二個目で最後の山頂をゆっくり楽しんだ。

本来は正面に槍さんの姿を拝みながらの歩くが今日は雲の帯を見ながら広い頂稜を双六小屋に向う。台地の端から小屋への急下降の道を慎重に下り、巻道と合流すると小屋は目の前だ。

15時に今日の歩行を終えた、我々だけの個室やビールサービス付きの旨い食事にご機嫌で床についた。

8/11 流れるガスに雨具か、と思った

が発発する頃には明るさも戻り、5時半過ぎ、サービスも従業員の雰囲気も◎の小屋を後にする。

双六池のテント場脇から笠ヶ岳ルートを辿る、眺望はガスに覆われているがスクリーンに投影される山影やブロッケンもどきに嬌声?を上げたりしているうちに弓折乗越の下山口に着く、稜線と



分かれ鏡平の下りにかかるとが歩きやすくと整備された道を快調に鏡池に、双六の小屋に、双六の山楽共和国の買物も済んで寄るが、やはり残念ながら池に映るのは木々と乳白色だけだった、槍・穂が見たけりやまたおいで、と言われて受けておきましょう。池をバックに写真を取り、鏡池を辞して、本格的に新穂高温泉を目指す下山路に入る。

シシウドが原で昼食にして、頻繁に登山者との行き違いに立ち止まりながらも、一歩一歩と下りは進んで秩父沢で最終の休憩をして、小池新道入口に到着、取り敢えず山道終了なので笑顔で握手、握手。

新穂高温泉でバス停直ぐの中崎山荘で入浴後、タクシーで松本駅へ、軽く下山祝いも出来て、メンバーは山人から街人へと復活していった。17名の大部隊だったが、全員元気に歩き通すことが出来、素晴らしい山行になった。これも、天候の味方と、メンバーの協力があればこそだろう。当会が着実に進歩している証でもある様にとと思う。



今回参加してくれたメンバーに心から感謝です。そして、これからもっともっと山を好きになってくれる機会になれば嬉しい限りです。

次回もまた皆さんと、苦しくとも楽しみが優るような思い出深い山行を、ご一緒できたらと思います。ありがとうございました。

アア、涼しい山に行きたいな！
来年の夏カァ…(@_@)

(記&写真・涌井 良明)